アーカイブ室新聞　（2012 年 5 月 31 日　第 596 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

## ＊イメージインテンシファイアー（II）を収蔵

2012 年 3 月末に定年退職した M 君が残したものについてアーカイブ室新聞第 585 号の「3 月末で退職した M 君が残したものーその１ー」（2012 年 4 月 26 日）という記事を書いた。そのリストの中に、

７．IMAGE INTENSIFIER ASSY(TYPE:3603-1)MADE IN USA（写真 1）がある。

写真 1　イメージインテンシファイアー

今の時代、この種のイメージインテンシファイアーを天文観測に使用することは無くなった。CCD が発達し量子効率が 90%を超えるような時代になったからである。この種のイメージインテンシファイアーは光電面に結像された像を増幅して蛍光面に結像させ、その像を写真に撮影するものであった。写真の量子効率が 1%台、光電面の量子効率が 10%そこそこだった時代のことである。

筆者が最初にイメージインテンシファイアーに出会ったのは 1960 年代、岡山天体物理観測所にいた頃である。188cm 望遠鏡のクーデ分光器にアメリカのカーネギ財団の援助でイメージインテンシファイアーが導入されたのである。大沢清輝先生の時代のことである。非常に高価で、その頃数百万円したと思う。そして非常な高電圧を、ディバイダーを介して

何段にも電圧をかけていた。

光電面に強い光が当たると光電面に「ヤケ」という現象が起きるので非常に扱いが厄介であった。今回収蔵したものは、その時代よりかなり後のもので非常にコンパクトになり扱いやすくなった時代のものである。しかし、光電面には「ヤケ」が見られ、すでに機能を失ったものと思われる（写真 2）。

写真 2　光電面に「ヤケ」が出来ている

再結像される蛍光面（写真 3）は無事のように見える。

写真 3　像が再結像される蛍光面

アーカイブ室新聞第 143 号（2009 年 3 月 1 日）に「岡山天体物理観測所から収蔵した II: イメージインテンシファイアー」という記事を書いている。今回収蔵したイメージインテンシファイアーは、測光部にいた M 君から譲られたものである。おそらく堂平観測所で使われていたものであろう。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp